

ATTENTION

日米株式市場久々に賑わっているが、米株投資はとっくに最高値更新！



米国市場が、ニューヨークダウ、S&P500とも年初来高値更新と沸き返っていますが、これまでの最高値は更新していません。最高値は、ニューヨークダウが2022年1月4日の36799.65ドル。11月30日の36245.5ドルから、もう1.5%、同じくS&P500は、2021年12月29日の4793.06ドル。11月30日の4594.63ドルから、もう4.3%上がらなければなりません。ところが、すでに日本から米国市場に投資している人にとっては、とっくに最高値を上回っているのです！ここは少し解説が必要ですが、日本から米国株に投資する人は、ほとんどが円をヘッジしていません。今年4月初めにS&P500は、最高値4793.06ドルから-5.2%でしたが、同じ日に円換算S&P500は、S&P500の最高値時点にすでに戻っていました。また、S&P500が最高値から一時23%も下がった2022年10月には、円換算S&P500は最高値時点から横ばいだったので、そして、11月末現在、S&P500が最高値更新まであと4.7%という中で、すでに円換算S&P500は、S&P500が最高値をつけた2021年12月から+22%となっています。円だけでなく、ほかの通貨に分散することも、リスク分散の一つなのです。逆に円高になっても、米国株高で救われるということも起こります。このように様々な手段でリスクを分散して抑えることが大事です！そして、日本株市場も、久々ににぎわっていますが、2021年12月から直近までの円建てS&P500は、日経平均を6%以上も上回っています。日本だけでなく海外に投資していることのプラス効果がはっきり見えます。

COLUMN

小さな成功の積み重ねが、大きな目標を達成する

「なるほど！」という書がありましたので、紹介しましょう。小さな進歩を続ければ、それがやがて大きな目標に到達するというものです。

小さな行いを積み重ねれば、望ましい存在になれる。小さなよい行いをしていると感じながら、手ごたえをつかむのだ。たとえば、人にやさしい人間になるという、質的向上を目指そうとすると、小さな行いを積み重ねていくことで、寛容な人間になるための“筋肉”が向上する。このトレーニングを続ければ続けるほど、“筋肉”が鍛えられるのだ。繰り返しが、成功への秘訣ということだ。最初は、小さくても、しっかりとした、意味ある行動をしていけば、やがてそれらが習慣になり(筋肉が付き)、努力をしなくてもできるようになる。

こうして、ある一つのことの改善にエネルギーを使うと、そのエネルギーは、他の面でも再利用できる。いわば、よい行動習慣になるということだ。実際には、成功体験より失敗体験をより鮮明に感じるバイアスがかかり、その進歩をなかなか感じにくい。しかし、小さな成功でも達成感を感じれば、脳はドーパミンを放出し、さらに向上するエネルギーを与えてくれる。小さな成功にも達成感を感じ、さらに小さな進歩を積み重ねれば、大きな目標に到達できる。

いきなり大きな目標を達成しようとしたも、絶対にできることはない。「一歩、一歩、継続は力なり。」

出典：How to Set Achievable Goals

MARKET

	(11月末)	(10月末比)
日経平均	33,486.98円	+2,628.13円 (+8.52%)
NYダウ	35,950.89ドル	+2,898.02ドル (+8.77%)
米ドル	148.25円	-3.55円 (-2.34%)

私の書棚より

よい評判は最も大事な宝石と思え。なぜなら信用は火のようなものだ。いったん火を付けたら、簡単に燃やし続けられるが、消えてしまうと、また燃やすのは難しい。よい評判を得る方法は、こういう人間になりたいと思う人間になるように努めることだ。

—ソクラテス

バフェットの右腕、60年来の盟友、チャーリー・マンガー死す

突然飛び込んできたニュース。マンガーが亡くなった。正直なところ「えっ」という声が出た。ついにその時が来たか。来年1月1日には、100歳を迎え、来年のパークシャー・ハサウェイの株主総会には、100歳で壇上に姿を見せるのを楽しみにしてきたのに、残念だ。つい先日、ウォール・ストリート・ジャーナルの2時間ものインタビューに答えていたのに、まさに急だ。バフェットの追悼の言葉が、簡潔だが重い。『チャーリー(・マンガー)のひらめき、智恵、参画がなければ、現在のパークシャーになっていなかった。』バフェット自身、マンガーがいなかったら、いまの自分はなかったと言っている。さぞ悲しみに暮れていることだろう。

私がマンガーから最初に学んだ言葉は、Ignorance removal(無知の排除)。人間、学ぶことを止めたら、生きている価値はないという。マンガーは、子どもたちから「本の下に脚が出ている」と言われるほど、読書の虫だ。いつも本を読んでいるとあってよい。旅行中の写真には、片手にペーパーバックを持つマンガーの姿がいつもある。

いまデスクに、Poor Charlie's Almanack(マンガーの思考が集大成でわかる本)が置いてある。500ページ超、重さ2キロを超える巨大本だが、ウィズダム(知恵)が満載だ。そのいくつかを紹介しよう。

・祖父の言葉を決して忘れなかった:「目の前の仕事に集中しろ。そして支出をコントロールしろ」

- ・評判と誠実は最も価値ある財産だが一瞬で失う。
- ・(人生の)ゲームは学び続けることだ。
- ・準備、修練、忍耐、決断が一体となって途轍もない効果を発揮する
- ・我々はたくさん本を読む。本を読まないで賢い人は知らない。
- ・自分の土俵の中で戦え。……

マンガーの言葉は遠慮がないが、真を突いている。一方で、底流には「正直、誠実、謙虚」がある。「正直にやっていたら、お金がどんどん入ってきた」という。

バフェットにとって、マンガーは右腕どころの存在ではない。マンガーあつてのバフェットといっても過言ではない。さぞ気落ちしているだろうが、おそらくバフェットは、そのような表情は見せずに、これからも、マンガーが願うように、淡々とパークシャーの経営を続けていこう。

それにしても、来年の株主総会は、残念である。傍らにいつもいるマンガーがいない株主総会。そのシーンを想像すると寂しいの一言だ。

All I want to know is where I'm going to die. So I will never go there.(私が知りたいことは、どこで死ぬかということだ。そうしたら、絶対にそこには行かない)。マンガーは、今年の株主総会で、「So far, it's working」(これまではうまくいっている)と言っていたが、ついに巨星は墜ちた。謹んでご冥福を祈る。Rest in peace.

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス  
代表 尾藤 峰男  
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ!

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者: びとうファイナンシャルサービス  
代表取締役 尾藤峰男

電話: 03-6721-8386  
携帯: 070-5567-3311 電子メール: [info@bfsc.jp](mailto:info@bfsc.jp)